

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

『グローバルという新しい嵐』

世界のゴルフ界は、タイガー・ウッズの戦線離脱から戦国時代の模様を呈してきている。賞金ランキングや、フェデックスカップ・ポイントをみても、この10年、目まぐるしく入れ替わっている。ローリー・マキロイや、ジェイソン・デイ、さらにはヘンリック・ステンソン、アダム・スコットなど、上位20位の中で同じような顔ぶれが大きく入れ替わり、むろん松山英樹もその中に加わり、タイガー・ウッズ以来の持続性の高いトップの座を狙っている。

この3年をみると、明らかに注目すべき現象が現れてきている。それは、20代の選手の群れを成したトップ集団の形成である。昨年から勝率が圧倒的に高い松山英樹をはじめ、ソニーオープンinハワイでタイガー・ウッズ以来の三連勝、しかも初日に59という米国PGAツアー最年少で史上7人目(8回目)の50台を打ち出したジャスティン・トーマス。共に20代である。さらには、リック・ファウラーやジェイソン・デイなどなど、タイガーのデビューした年には、まだ2、3歳だった彼らは今や、世界のゴルフ業界を牽引している。

彼らのプレースタイルをみると、300ヤードを優に超える十分な飛距離と、50ヤード以内といわれるアプローチの本能的なうまさがある。さらには、若さであろうが、コースの攻略法は、大胆不敵、極度の緊張をしたりすることもない。

我が国のスポーツ界をみても、テニスの錦織選手をはじめ、野球の大谷選手など、世界のトップを目指す選手が続々と台頭してきている。彼らの特徴は幼年期から国際試合に出場し、外国人選手と競争し、いわゆるグローバルな環境の中で技を磨いてきたことである。

サッカーや野球で、ワールドカップが行われている。むろんゴルフ界においても、ワールドカップという試合が行われているもの、今一つサッカーや野球に比べて盛り上がりにかけている。東京オリンピックが近づいてきているので、中学生や高校生選手を招待したいいくつかの世界大会のスポンサーが、数年後に世界のトップの座を射止める可能性のある彼らをサポートするのも知恵のある話ではなからうか。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。
高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。